はじめに

特定非営利活動法人はちみつ
管 理 者　　金 室　修 平

昨今、急激にデジタル化が進み、とても便利な世の中になりました。24時間365日の電気の供給や、発展し続ける経済に、私たちが翻弄されているようにも感じます。福祉の世界もデジタル化が進み全てスマホ等（デジタル）で管理をする時代となりつつあります。便利なのは良いのですが、便利すぎるのも違和を感じます。人を支援するのは、AIや機械ではなく、やはり人であり、支援の質を高めていくのは、デジタルではなく、人というアナログでないと高められません。

市内には、多くのGH（グループホーム）が出来ていますが、障がいが重い方は対象外であったり、協調性のない方は受け入れできませんと言って断られるケースをいまだに耳にします。施設や法人の方針と言ってしまえば、それまででしょう。量の確保も大切ではありますが、質の向上も伴わなければ、利用者やそのご家族の豊かな生活は保障されません。四街道福祉や福祉全般の質の向上を、私たちも含めて図っていくことが、今後の福祉の課題ではないかと思います。

特定非営利活動法人はちみつは、7年目を迎え、生活介護はちみつは、6年目を迎えます。今年度も、全国的に流行している新型コロナウィルス感染拡大が収まらず、慎重な運営をせざるを得ない状況でした。当施設に通う利用者が安心して生活できるように、職員一同、三密や手洗い、換気、消毒を徹底しました。また、利用者が施設で過ごす上で、常に更新される感染症の情報に対して、『はちみつ（つきのわ）』で注意することや、問題点などの共通理解を深めるために研修などを積極的に行いました。幸い大きな被害は受けませんでしたが、この一年は感染症への対策という意識を改めて考えさせられる一年でした。

今年度の事業報告は、はちみつ、つきのわそれぞれでみられた『利用者同士の関係の深まり』をテーマに報告させて頂いております。コロナ禍ということもあり施設内で過ごす事が多い1年でした。しかし、逆を言うと施設内での取り組みが、今まで以上に充実していたようにも思います。レクリエーションでは、仲間同士の団結といった様子が顕著にみられました。また、アートにも積極的に取り組むことができました。これについては、下記に記載しましたが、ある程度の成果と具体的な課題や目標も見つけられたと思っております。生産活動では、木工、竹箒の他に、織物を始めました。販売会も徐々に再開され、これまで以上に『販売』を意識した利用者の姿が印象的でした。コロナ禍での生活も、『塞翁が馬』と、今ある生活を工夫したり、意識を変えれば、支援や取り組みも豊かなものになります。

イベントは自粛をせざるを得ない状況でしたが、『Honey come！！2021』（当法人主催の展示会）を開催致しました。地域の方々に『特定非営利活動法人はちみつ』を知ってもらうと同時に、障がいに対しての理解を広めることを目的とし行いました。約400名の

方たちが足を運んでくださり、利用者の絵画や作品に触れ、大変貴重なありがたいご感想を多くいただくことができました。また、たくさんの方々のご協力がなくては、この展示会を開催することはできませんでした。この場をお借りして感謝を申し上げます。来年も継続して行うことで、当法人のことや障がいへの理解、そして利用者の絵画等の作品を通して、文化を発信できたらと考えております。

また、『はちみつぶんぶん』という地域情報冊子も作成いたしました。コロナ禍で活動を自粛している福祉事業所や福祉関係団体等の情報冊子を作り、地域の方々に知ってもらうためのツールとして活用してもらうことをねらいとしております。

こうした取り組みを通して、私たち『はちみつ』が行ってきた活動が、少しずつですが四街道市という地域に発信できつつあるように思います。もちろん、活動をし始めて7年目になりますので、これからも続けていくことで、根付かせていかなければなりません。
地域に貢献する、社会に貢献する事こそが、法人の使命であり、福祉施設の使命として捉え、高齢、児童、ＧＨなど多種多様な事業を展開する必要があると思います。昨今、大変悲しい事件や事故がおこっております。テレビ局等の報道にも偏りはあるとは思いますが、障がいに対する偏見や差別はまだまだ根が深いと思います。今後も事業活動や啓蒙活動を通して、少しでも偏見や差別をなくす活動を行っていきたいと考えております。障がいがある方もない方も、豊かな生活を送ることができる地域社会を目指して、引き続き取り組んでいきたいと思います。

さて、令和3年10月26日に『社会福祉法人よつかいどう福祉会』を設立致しました。
令和4年9月に、『特定非営利活動法人はちみつ』から『社会福祉法人よつかいどう福祉会』と法人名を代え運営致します。現在は、土地区画整理事業地内ですが、換地が終われば住所表記が「四街道市たかおの杜」という地名になります。引っ越しは、皆で一緒に行っていきたいと思います。今から引っ越しを楽しみにしている利用者もいるほどです。この社会福祉法人格取得においては、２年前から取り組んできたことです。どんな時も『塞翁が馬』と思い、諦めなかったことで、実現することができました。毎日一緒に奔走して下さった四街道市手をつなぐ親の会穴澤会長をはじめ、四街道市役所職員、いつも若輩者の私たちに指針やアドバイスをして下さった先達の皆様方、多くの関係者や利用者とご家族、そして法人職員の助言や協力のおかげだと思っております。心から感謝申し上げます。

本年度は、『特定非営利活動法人はちみつ』から、『社会福祉法人よつかいどう福祉会』へと変化の年であり、法人が代わった生活介護はちみつは年度途中の9月からのスタートになります。引き続きご支援ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

01 | ホーム活動

はちみつ

渡邉京子　宮本英恵　山畑遼侑　堀柊人　石田政枝　北林智子
鈴木尚子　齋藤牧子　渡邉昌代　市川洋子　櫻井美紗都　森川幸治

今年度、はちみつは５名の新しい仲間を迎えることが出来ました。
はちみつの先輩たちは新しい仲間をあたたかく迎え入れてくれました。そのおかげで、最初は緊張していた新しい仲間も、自分らしい姿で毎日を過ごすことができているように感じます。新しい仲間と共に、仲間との『関係の深まり』から利用者の成長が感じられた素敵な姿を、エピソードを交えてご報告させて頂きます。

NO.1　仲間と一緒に

　はちみつでは、ウォーキングを週に１度行っています。歩き切った達成感、仲間と歩く楽しさなど、楽しみを見つけながら歩いています。しかし、ウォーキングに行く事に見通しが持てずに戸惑ってしまう利用者もいます。
ここでは、仲間同士の関係の深まりがわかるエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE 1

この日は全員でウォーキングに行く日でした。皆がスタートするところで、職員がBさんに「ウォーキングに行きましょう」と声を掛けました。しかし、Bさんは気分がのらず歩き始める事が出来ずにいました。職員が何度声を掛けても歩いてくれませんでした。
その様子をみていたAさんは、「Bさん一緒に行こうよ。」と優しく手を差し伸べてくれました。するとBさんは、Aさんの手を取って一緒に歩き始めました。2人は声を掛け合い、歌を歌いながら歩いていました。

　その日のBさんは、ウォーキングへ行く事に見通しが持てずに不安だったのかも知れません。職員が「ウォーキング行こう」と声を掛けても、Bさんは歩いてくれませんでした。しかしAさんが「一緒に行こう」と声を掛けると、「Aさんとなら一緒に行きたい」と思い歩き出したのだと思います。
　職員の声掛けでは歩き始める事が出来ませんでしたが、利用者同士で声を掛け合い、歩き始めた素敵な場面が見られました。

NO.2 何度も練習をして

はちみつでは、描画や折り紙を使った創作活動を行っています。
利用者さんは、創作活動が大好きです。切る事が好きな人、折る事が好きな人など楽しみながら創作しています。ここでは、苦手な作業を諦めずに行い、仲間との関係が深まるエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE 2

この日は、折り紙でカブトを作る日でした。Cさんは、説明を受けてカブトを折っていましたが、なかなか上手く折れません。すると、一人で何度も折る練習を行っていました。
Cさんは、練習していく中でカブトを折るコツを掴み、折れるようになりました。
自信がついたCさんは、Dさんに折り方を教えてくれていました。

職員は、Cさんが不器用なので折り紙を折る事は難しいのでないか？と思っていました。しかし、Cさんは真剣な表情で折っていました。Cさんは本気で「カブトを完成させたい！」と思っていたのではないかと思います。なぜそう思ったのか？と振り返ると「大好きなDさんにカブトの折り方を教えたい！」という思いがあったからだと思います。Dさんに折り方を教えている姿は誇らしげでした。Dさんが完成した時には自分の事のように喜んでいる姿が見られました。

NO.3 紫陽花

感染対策を十分に行った上で、紫陽花を観に川村記念美術館へ外出しました。久々に外出が出来て、利用者は楽しい思い出が出来たと思います。外出に合わせて、皆で紫陽花の制作を行った時のエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE 3

シールを貼る作業が得意なEさん。ちぎる作業が得意なFさん。この日の制作では、一人ひとり得意な作業を協力して、紫陽花を作りました。
色とりどりの折り紙をちぎって貼るFさんと、めしべをイメージした丸いシールを貼る、Eさんが協力して、紫陽花を作っていました。
EさんとFさんが協力した事で、綺麗な紫陽花が完成しました。

協同作業は、仲間との関係がより深まるように思います。これまでのEさんとFさんは、関りが少ない関係でした。しかし、EさんとFさんは、協力して紫陽花を作っていく中で、関係が深まっていったように思います。その後も、EさんとFさんは得意な所を協力して作業に参加する姿を見せてくれています。

NO.4　花壇作り

はちみつでは、今年度も花壇にアサガオの種を蒔きました。綺麗なアサガオを咲かせるためには、まず土を作るところから行わなければいけないと思います。ここでは、利用者全員で協力して土作りを行うエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE 4

この日の活動では、アサガオの種を蒔くために花壇の土作りを行いました。堆肥を掘って持ってくる人、花壇の土を耕す人、堆肥と土を混ぜる人と利用者同士が協力して花壇を完成させていきます。
土作りを行っている時の皆は、真剣な表情をしていました。完成した花壇に、アサガオの種を蒔き終えた皆の姿は、達成感に満ち溢れていました。

まとめ

今回の事業報告では『仲間との関係の深まり』をテーマにまとめました。
エピソードでは、利用者同士が声を掛け合い行動する姿や、仲間に教える姿、そして仲間と協力して一つの目標を達成していく姿が見られました。これらの姿が見られたのは、ホームで活動を行う時間が増えたからだと思います。
当法人の支援方針にもあるように『得意な所に目を向けて、苦手な所に手を当てる』支援や取り組みによって、エピソード２の様に苦手な事を克服するのも大事な事ですが、エピソード３の様な得意な所に目を向けて伸ばす事は、それ以上に大事だと思いました。
それによって利用者同士の関係が深まっていく姿が見られました。

今年度は、十分な感染対策を行わなければ外出する事が出来ませんでしたが、久々の外出で紫陽花を観に行くことができ、利用者は笑顔で楽しそうに過ごしていました。
外出が出来なくても、楽しく過ごせるホーム活動の取り組みとして、はちみつ運動会やオリンピックに因んで８リンピックなどのレクリエーションを行いました。この時見られた利用者の素敵なエピソードは別の機会にご報告出来たらと思います。

この一年を振り返ると、創作活動やレクリエーションを多く取り組んできました。そこで「こんな得意な所があったんだ！」と、利用者の新しい発見がたくさんありました。
来年度も、そんな素敵な姿を皆で共有し、利用者一人ひとりにスポットを当てられる支援を行っていきたいと思っています。

2021年度 実施一覧

	調理	創作活動
4月	イチゴのカップケーキ	壁面装飾：桜の木（ちぎり絵）
5月	ゆずゼリー	壁面装飾：カブト・鯉のぼり ・母の日製作（フェルトカーネーション） ・畑の看板、装飾づくり
6月	抹茶豆乳プリン	壁面装飾：あじさい ・しずくモビール＆てるてる坊主
7月	あんこクリームサンド	壁面装飾：かき氷（にじみ絵）
8月	フルーチェパフェ	壁面装飾：ステンドグラス風花火 （カラーセロハン） ・スクラッチアート
9月	どら焼き	壁面装飾：実りの秋（ペーパークラフト）
10月	クレープ	・運動会用メダル作り（折り紙工作） ・写生／さつまいも＆りんご
11月	チョコレートプリン	・写生／柿 ・葉っぱのフロッタージュ
12月	お疲れ様パーティー	壁面装飾：段ボールツリー ・冬のポストカード
1月	餃子ピザ	壁面装飾：だるま、書初め ・大漁旗（共同制作）
2月	白玉団子ぜんざい風	壁面装飾：ハートモチーフ
3月	フレンチトースト	壁面装飾：枝垂れ桜

造形サークル

４月	燻製器エヴァンゲリオン カブト製作（折り紙）	１０月	りんご果汁のあぶり絵
５月	ゲーム用うちわ	１１月	
６月	あじさいポストカード	１２月	しめ縄飾り
７月	七夕飾り	１月	凧づくり
８月	ひまわり（塗り絵）	２月	糸電話
９月	三宝（ペーパークラフト）	３月	おひなさま製作

02 | ホーム活動

つきのわ

高田有啓・緑川景太・山本鮎実・嶺岸みゆき
齋藤牧子・本間碧・北原晶子・村島友里絵

今年度、つきのわは4名の新しい仲間を迎えることができました。新しい仲間が加わったことで、つきのわはさらに活気が溢れるホームとなりました。

つきのわは２年目に入り、仲間とともに過ごすなかで、同じホームの仲間を思いやり、自ら行動する姿が多くみられるようになりました。そんな姿をエピソードとともに紹介させていただきます。

NO.1 やっちゃえ！○○さん！

今年度、つきのわでは「やっちゃえ！○○さん」という、一人ひとりの得意なことにスポットライトを当てて、仲間のことについて知るという取り組みを行いました。
新しくつきのわの仲間に加わったAさんが主役の「やっちゃえ！Aさん」を行った際に、得意な事を仲間に知ってもらったことで、新たな役割が生まれたエピソードを紹介します。

EPISODE 1

Aさんは、小学校で学ぶ計算問題のドリルを解くことを日課にしており、暗算をすることが得意な方です。「やっちゃえ！Aさん」では、皆の前で暗算を披露することになりました。皆の注目を集める中見事に全問正解し、周りの人から「すごい！」と拍手が起こりました。普段はクールなAさんですが、拍手が起こると笑みがこぼれていました。
また、ある日のホーム活動でレクリエーションを行なった時のことです。
チームに分かれた対抗戦で、得点を出す時、「Aさんに計算してもらったらどう？」と仲間から提案がありました。Aさんに計算をお願いすると、得意気な表情でチームの得点をすぐに出してくれました。この日からAさんは得点係となり、仲間からも頼られる姿がみられるようになりました。

Aさんの得意な事を皆に知ってもらったことで、「Aさんってこんなことができるんだ！」という、それまで知らなかったAさんの一面を皆に知ってもらうことができました。

Aさんにとっては、自分が得意としていることが役割となり、頼りにされることは、仲間から認められる経験につながったと思います。

NO.2 支えてくれる仲間

つきのわでは、仲間のために率先して行動する先輩の姿をお手本にしたり、困っている後輩に自然と手を差し伸べてあげることができたり、互いに刺激を受け合っていると感じる場面が多くありました。そんな先輩と後輩のエピソードを紹介します。

EPISODE 2

Ｂさんは、先輩をお手本にしながら人の役に立つことをすすんで行なってくれる方です。
毎朝行なっている竹のストレッチをしている時の出来事です。普段は、先輩のCさんが竹を配ってくれており、「ありがとう！」と皆からお礼を言われていました。
その姿をみていたＢさんは、この日は自ら竹を持ってきて、皆に配ってくれようとしていました。しかしＢさんは、床に置いてあるものを屈んで取ることが難しく、床に置いてある箱の中からうまく竹を取ることができずにいました。その様子をみていた先輩のＣさんは、咄嗟に立ち上がり、Ｂさんが屈まずに取ることができるように竹が入っている箱を抱えながら一緒に配ってくれました。
「２人ともありがとう！」と称賛されると、お互いにとても良い表情をしていました。

つきのわでは、仲間のために行動してくれた姿がみられた時に、「ありがとう！」と、称賛することを大切にしています。Bさんは、仲間のために行動しているCさんの姿をみて、「自分も役に立ちたい」という思いから、自ら竹を配ってくれたのだと思います。
また、Cさんは、普段から仲間のことをよく見ているからこそ、咄嗟に手を差し伸べてあげられたのだと思います。Bさんは、支えてくれる仲間の存在を強く感じたと思います。
１人では難しかったことを、仲間と一緒に達成できたことは、お互いにとって良い影響を与えていると感じました。

NO.3 理解してくれる仲間の存在

つきのわでは、利用者一人ひとりに役割があり、それぞれが責任をもって取り組んでくれています。そんな仲間同士だからこそ、気持ちを理解し合うことができていると感じたエピソードを紹介します。

EPISODE 3

はちみつ体操の号令係を担当しているDさんは、毎日、自分の役割としてしっかり行なってくれています。しかし時々、気持ちに余裕がなくなってしまうことがあり、号令を他の仲間にお願いすることもありました。
この日のDさんは、なかなか号令に気持ちを向けることができず、体操をする時間になっても皆が待つところに来ることができませんでした。そんなDさんのことを心配していたEさんは、「Dさん、大丈夫？」と声を掛けにいきました。Eさんから声を掛けられたDさんは、心配してくれた仲間の一言で硬かった表情がすぐに和らぎ、号令に気持ちを向け、役割をこなすことができました。
Dさんはこの後、「Eさんが気にかけてくれて、みんなも待っててくれた」と嬉しそうに話していました。

Eさんも、ミーティングの司会を毎日頑張って取り組んでくれている方です。
Eさんは、号令係を頑張っているDさんの姿をみていたからこそ、Dさんの立場にたって考え、他の誰かに代わってもらおうとするのではなく、Dさんに直接声を掛けにいってくれたのだと思います。
号令係という役割をしっかりこなしたい、というDさんの気持ちを理解していたからこその行動だったのだと思いました。

NO.4 相手を尊重する気持ち

毎年恒例のお疲れ様パーティーは、皆が楽しみにしている一大イベントです。
そのお疲れ様パーティーの実行委員に任命されたFさんが、ホームを代表して実行委員の会議に参加し、実行委員という立場にたって、個人の思いよりも仲間のこと優先して考えてくれたエピソードを紹介します。

EPISODE4

この日の実行委員会では、当日行うボウリング大会のチーム編成について話し合っていました。「はちみつ対つきのわ」で対戦するか、はちみつとつきのわのメンバーを混ぜた「混合チーム」で対戦するかを決めていました。恥ずかしがり屋な一面があるFさんは、普段は自分の意見をあまり表に出さず、心に留めてしまうことが多い方です。
Fさんは、どちらが良いか意見を求められると、少し考えたあと「つきのわのメンバーで戦いたい」と答えてくれました。しかし、はちみつの実行委員のGさんから、「はちみつ対つきのわだと、はちみつは女性が多いからつきのわに負けてしまうかもしれない」という意見が出ました。その意見を聞いたFさんは少し迷っている様子がありましたが、Fさんの意見に納得し、賛成してくれました。つきのわのメンバーで戦いたいという自分の気持ちをきちんと伝え、さらに相手の意見を尊重するという姿をみせてくれました。

Fさんは、毎日一緒に過ごしているつきのわのメンバーと一丸になって戦いたいという思いがありましたが、つきのわの代表として実行委員を任されたという自覚があったからこそ、自分の意見を通すのではなく、Gさんの意見を尊重してくれたのだと思います。
ホームの代表として利用者同士で話し合い、何かを決めることはあまりない機会ですが、Fさんにとって、大きな経験になったのではないかと思います。

まとめ

一年を振り返ると、仲間に対する利用者の自主的な姿がたくさんみられました。
エピソードでも紹介させていただきましたが、仲間のことについて知ることは、関係作りの第一歩であることが分かりました。相手を知ることで、気持ちを理解することができたり、考えを尊重することにつながり、仲間を思いやることができるのだと思いました。
　また、ホームのなかでの役割は、「〜〜といえば、〇〇さんだよね」というような、利用者ひとりひとりにスポットライトが当たることで、仲間から認められ利用者が自分らしく過ごすことができる居場所にもつながっていると思います。
今後も、利用者の想いを大切にして、安心して過ごすことができるホームにしていきたいと思います。

2021年度 調理実施一覧

	メニュー名
4月	いちご大福
5月	フルーツゼリー
6月	プリン
7月	ポテトチップス
8月	マシュマロサンド
9月	ラスク
10月	ホットケーキ
11月	ピザトースト
12月	餅つき
1月	いちごのカップケーキ
2月	どら焼き
3月	わらび餅

03 | 生産活動

木工班

渡邉京子　宮本英恵　森川幸治　堀柊人　石田政枝　北林智子
鈴木尚子　齋藤牧子　渡邉昌代　市川洋子　櫻井美紗都　山畑遼侑

今年度も、コロナ禍ではありましたが、徐々に販路を確立し販売会も再開したことで、具体的な相手（お客様）がいる生産活動を行う事ができました。現在は四街道市内にある、『Lucyさん』『べーぐるきっちんさん』に製品の委託販売をお願いしています。そして、初の試みとなる岐阜県の『社会福祉法人いぶき福祉会さん』との初のコラボ製品であるカレンダー立てを作らせていただきました。11月末には、外部の販売会である『ユニバーサル農業フェスタ』も再開したことで、『はちみつ』も出店し多くの方々に私たちの製品を手に取っていただけました。多くの方々に、製品を評価してただけた事で、より強く手応えを感じると共に自信をつけることが出来た1年になったと思います。今年度の事業報告では、販売会に向けての製品作りや、当日販売を頑張る姿、初めてのコラボ製品作りの様子について、利用者一人ひとりの様子をエピソードを交えて報告したいと思います。

NO.01　製品について考える

今年度は、販売会が再開されたことで今まで以上に製品づくりに力が入りました。その中で、製品の在庫や売値について自分なりに考え悩む姿が見られたAさんについて紹介したいと思います。

EPISODE1

> いつも、集中して製品作りをしてくれているAさん。今年度は販売会が再開することもあり、今まで以上に活動に熱が入っていました。そんなある日、Aさんから「この製品は〇〇円で売ったらいいと思うんだ」「この製品はもう少し在庫があった方がいいと思うんだ」と職員に話してくれました。今までは「この製品はいくらだっけ？」と質問されることはあっても、Aさん自身で値段や在庫について考えて話してくれることはありませんでした。その日を境に、Aさんは製品について沢山の意見を出してくれるようになり、販売会でも出品した製品の多くを手に取っていただけました。その中にはAさんが在庫を増やしたらどうかと意見を出してくれた製品もあり、製品が売れたことでAさんもガッツポーズをして手ごたえを感じていた様子でした。

今回、このようなAさんの姿が見れたのは、販売会が久しぶりでいつにも増して熱が入っていたことも大きかったと思います。実際に販売では、多くの製品が売れたことでAさんの自信や手応えに繋がったのではないかと思います。今回の製品作りと販売会を経て、Aさんは今まで以上に製品づくりに集中して取り組みながらも、製品についての意見を出してくれています。

NO.02　元気な挨拶でお出迎え

人前で大きな声であいさつするのが、苦手な人、得意な人がいると思います。ここでは、販売会で積極的に大きな声で挨拶をして、お客さんを出迎えてくれたBさんについて紹介したいと思います。

EPISODE 2

久しぶりの販売会、少し緊張した様子のBさんでしたが、はちみつのテントの前に立ち、前を通る人たちに「いらっしゃいませ！」と元気に挨拶をしてくれました。
当日は人がとても多い中でしたが、Bさんの元気な挨拶で多くに人が足を止めて製品を手に取ってくださいました。お客さんから「これは、みなさんで作ったものですか？」と質問されると「そうです！」と笑顔で返すなど時間が経つにつれて少しずつ、緊張が解れていくBさん。テントの前で、元気に挨拶するBさんを見て興味を持ち、お店に足を運んでくださるお客さんも沢山いました。もちろん、お客さんが帰られる際には「ありがとうございました！」と元気よく挨拶。はちみつに戻る頃には「うまくできましたね」と満足そうなBさんの姿が見られました。

今回、Bさんのこのような姿が見れたのは、久しぶりに販売に参加できたことがとても大きいと思います。初めは、久しぶりで上手く大きな声が出せなかったBさんですが、お客さんが製品を手に取る姿を見て少しずつ、大きな声が出るようになりました。そんなBさんに触発されて、負けじと元気に挨拶をしてくれる仲間も居て販売会は大盛況でした。
早くも次の販売会を楽しみにしているBさん。次回も、Bさんの元気な挨拶に期待です。

NO.03　オススメは、コレ！

自分の気持ちを伝えることが苦手なCさん。販売会では、お客さんに自分のオススメの製品を実際に手に取り、手渡して宣伝する姿が見られたので紹介したいと思います。

EPISODE 2

販売会に参加した、Cさん。店頭に立ち始めた時は、職員の後ろでお客さんの様子を伺っていましたが、ヘアゴムを見ていたお客さんから「何がオススメですか？」と聞かれると迷いなくヘアゴムやペン立て等を手に取り「どうぞ」と手渡してくれました。
それ以降は、お客さんから質問を受けると「オススメは、これ！」と製品を勧めてくれていました。お客さんからも「これが、オススメなのね。ありがとう」と言われ、Cさんも嬉しそうにしていました。

Cさんが製品を手渡すキッカケになったのは、お客さんからの質問があったことが大きいと思います。久しぶりの販売会で緊張した様子でしたが、手渡した物を多く買ってもらえた事がCさんの自信や手応えに繋がったのだと感じました。次の販売会でも、オススメの製品を宣伝できるように活動を頑張りたいと思います。

NO.04 縁の下の力持ち

販売会では、会計や製品の受け渡しなどの仕事が目につきやすいですが、それとは別に目立ちにくい仕事ではありますが、安全に販売ができるように支えてくれた姿が見られたので紹介したいと思います。

EPISODE4

販売会の当日、設置していた看板やテントが強風で煽られ不安定な状態でした。
その時、当番に来ていたDさんが、そっと自分からテントの脚を手で掴んで支えてくれました。Dさんのお陰で、テントは安定し、安全に販売することが出来ました。寒い中でしたが、はちみつに戻る時間までDさんはテントを支え続けてくれました。

店頭に立ち、接客するだけではなく仲間が安全に販売できるように、テントを支えてくれたDさん。前に立つ仕事に注目してしまいがちですが、目立ちにくい仕事をして支えてくれる人がいるからこそ、私たちも安心安全に仕事が出るんだとDさんの姿を見て改めて感じました。私たちは、側楽（はたらく）を支援方針に掲げており、側を楽にする事が本当のはたらくになると考えています。今回の様に、テントを支えることで側にいる仲間たちを楽にする「はたらく」、製品を手に取っていただいたお客さんにとっての「はたらく」。色々な形の側楽（はたらく）があると思います。はちみつの皆が日々の中で、この側楽を実践している事を嬉しく思いました。

NO.05 初！コラボ製品！

今年度、初めて他法人とコラボ製品を作りました。コロナ禍にオンラインで繋がった岐阜県の社会福祉法人いぶき福祉会さんとのカレンダー立てです。こちらの法人のブランドマネージャー・山本さんのデザインでサンプルを作り、何度か改良を重ねて完成に至りました。ノコギリ・やすり・穴あけ・クリップ・接着・梱包など沢山の工程を皆で協力して頑張りました。最初に注文を頂いた、50個分の完成が近づくと「あと何個だ！頑張ろう！」と最後までやりきる事ができました。目指す数（ゴール）が決まっていると、仕事へのモチベーションがいつもよりも高かったように思います。当初は50個の注文だったのが、好評につき追加注文で20個、更にはちみつでも販売しよう！と50個、最終的には120個ものカレンダー立てを作りました。今回は、完成したコラボ製品の発送前に見られたEさんの姿を紹介したいと思います。

いぶき福祉会さんに完成したカレンダー立てを発送する際、Eさんの手書きの手紙を同封しました。そこには「なにか不備がありましたらば、はちみつまで返品してください」とありました。また、梱包されているのに未発送状態の段ボール箱を見て「あとは発送が間に合えば…」と納期を気にしていました。自分たちが作った製品を待ってくれている人が居るという事が、Eさんのやる気に繋がり、仕事への責任感を感じていることが分かりました。

初のコラボ製品では、最初から最後までいつも以上にやる気に満ちていたEさん。完成した製品の梱包が終わってからも納期を気にする等、まだ顔も声も知らない相手の事を考える優しい姿が見られました。実際に、発送が終わってからも「喜んでもらえるといいなぁ」と話されていました。コラボという貴重な機会に恵まれて、Eさんをはじめ皆も大きな手応えを感じると共に、仕事への責任感も一層強くなったように感じました。

いぶき福祉会さんコラボ製品

まとめ

今年度から再開された『ユニバーサル農業フェスタ』では、多くの方々に製品を手に取っていただき、はちみつの事を知ってもらうことができました。そして、岐阜県の『社会福祉法人いぶき福祉会さん』との初コラボ製品であるカレンダー立ても好評で、当初の数量に追加で注文をいただく事ができました。コラボ製品をはじめ、多くの製品を作り、販売したことで、自信や手応えを感じ、昨年度とは違った外部との関わりもあり、良い刺激を受けながら活動を行う事ができたのではないかと思います。現在は、注文を頂いた製品作りと竹箒作りを中心に作業を行っています。今年度も、コロナ禍という困難な状況下ではありましたが、仲間同士の絆が強くなった一年だと感じました。
来年度は、9月から成山へ移動して活動を行う事になります。支援方針で掲げている「側楽（はたらく）」を念頭に置き、皆で協力して頑張っていきたいと思います。
今後も『はちみつ木工班』をよろしくお願いいたします。

04 | 生産活動

織物班

高田有啓・村島友里絵・山本鮎実・嶺岸みゆき
齋藤牧子・本間碧・北原晶子・緑川景太

『つきのわ』は前年度に開所し、その当時は『はちみつ』と『つきのわ』の合同で木工作業のみ行っていました。そこから一年間が経ち、二つのホームに対して二つの活動を設け、一人の利用者に対して複数の集団を保障しようという考えから織物班が誕生しました。しかしながら、実際にはコロナウイルスの影響により一人に対して複数の集団を保障することは困難になってしまったため、現在では『はちみつ』では木工班、『つきのわ』では織物班として生産活動を行っています。

今年度から新たに織物班スタート！

つきのわのみんなは織物を新たに始めることを知ると、織物とはどんなものなのだろう？といった訝しげに眉を寄せた表情をしていました。はじめは右も左もわからず、ソワソワしながら作業に取り組んでいました。整経からはじまり、筬通し、綜絖通し、機織り、それに加えてボビン作りなど、様々な工程を経てようやく一つの織物が出来上がります。すべて一からで覚える事ばかりのため苦戦を強いられていましたが、過去に機織りを経験したことのある利用者はみんなのお手本となり、本領発揮していました。その姿を見てみんなは刺激を受け、「次は自分もやってみる！」と前向きに作業に取り組む姿が見られるようになりました。

完成品と記念撮影！

NO.01 挑戦の連続

はじめて取り組む作業も多くあり、思うようにいかないことも何度もありました。ボビン巻きの一つでも、どのように巻けばよいのか、どれくらい巻く必要があるのかなど考えながら作業をしなければなりません。このように、ボビン巻き以外の工程にも一つひとつそれぞれ異なる工夫をしながら取り組む必要があります。そんな中でも、お互いに刺激し合い、支え合いながらなんとか前進していくみんなの姿から、挑戦することや仲間と支え合っていくことの大切さを改めて感じました。それを踏まえて、機織りを行っているときのエピソードとともに紹介したいと思います。

EPISODE1

覚える必要のある作業も多く、Aさんは集中することが難しい時もありました。しかし、そんな時には好きな言葉を口にしたり、好きな歌を一緒に歌いながら作業をすることで気持ちも切り替わり、想像を遥かに超える集中力で次々に作業に取り組んでいました。そのような姿を見て、今では利用者同士で声をかけたり、歌を口ずさんだりしてお互いに励まし合い、楽しみながら作業に取り組む姿が見られるようになっています。そのため、活動中に笑顔も増え、良い雰囲気の中で作業に取り組むことができています。

作業だけでなく、音楽などの自分の好きなことを作業に少し加えるだけで活動に対する見方が変化すると実感しました。また、楽しい雰囲気を作ることにより、利用者同士で何気ないコミュニケーションも増え、お互いに支え合うきっかけを作ることができたと思います。今後も一人ひとりに合わせた取り組みの方法をとりながら、生産活動に励みたいと思います。

EPISODE2

機織りはみんなが巻いたボビンをセットしたシャトルを手に持ち、両手両足を使って行う作業です。Bさんは両手と両足を同時に使うと頭の中で順番が混乱してしまい、うまくいかないことが多々ありました。そこで、一人が両手を使ってシャトルを糸に通し、一人が両足を使い、二人で作業を進めていくことでうまくいくようになりました。このように一つの作業を分業することによって、お互いに支え合い、協力して一つのものを作り上げていくことから仲間意識が生まれていきました。

苦手な作業があっても、それは誰かにとっての得意な作業です。みんなで分業し、お互いに支え合うことでひとつの作業が完成に近づいていきます。一人で物事を成し遂げることも大切なことですが、仲間と一緒に成し遂げることによりさらに達成感を得ることができると思います。これからもこのような支え合う機会を大切にし、仲間と一緒に各々がしっかりと役割を持って様々な作業に取り組めるようにしていきたいと思います。

NO.02　形になってくる、そして製品へ

みんなで協力して機織りを進めていくことで、いよいよ完成に近づいてきました。一つの織物が完成するまでには様々な工程があり、長い時間がかかります。長い時間をかけて一所懸命に頑張ってきたからこそ完成したときの達成感をより味わうことができます。ここでは織物が完成したときのエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE2

一つの織物が完成に近づくとみんなソワソワし始め、完成が楽しみな様子が見られました。そして、とうとう完成すると、みんなでハイタッチ。その瞬間は達成感で溢れていました。その場で完成した織物を手に取り、嬉しそうにしながらキラキラした笑顔を見せてくれていました。(ページ下写真)。このように少しずつ作業を覚え、達成感を味わうことができるようになりました。

織物が完成したときのみんなの表情はとても素敵なものです。
これからも一人ひとりが達成感を味わえるような環境作りに励んでいきたいと思います。

みんなで作った織物を使って、次のような製品が完成しました。
◎ヘアゴム◎メガネケース◎ペンケース◎ポーチ Etc.
試行錯誤をしつつ、様々な製品を作っていきたいと思います！

まとめ

つきのわで織物作業を行うことにより、木工作業のときと違うみんなの新しい姿を見ることができました。今まで以上に利用者同士で助け合う様子が見られたり、声をかけ合って楽しい雰囲気を作ったり、利用者一人ひとりの得意なところを活かして取り組めていたと思います。これからも楽しい雰囲気を作りながらもよりよい製品を作れるように精進していきます。

課題としては、コロナウイルスの影響で販売に行く機会に恵まれず、自分たちで作った製品が売れていくところを目にする機会が少なかった点があげられます。売れた実感を得ることが難しいため、その代わりに売れた分のお金をみんなで確認するなどの工夫をしていきたいと思います。それに加えて、機織りで完成した織物をどのような製品にするのかも課題の一つです。種類を増やすことや、織物を製品化するには委託する必要があるのかなど、検討・改善が必要かと思います。

課題もたくさんありますが、仲間や地域との交流を大切にしながら今後も少しずつ前進していこうと思います。これからの織物班に期待していてください！

05 | 文化を発信

海外では一定の地位を確立している障がい者アート（いわゆるアール・ブリュット）ですが、パラリンピックやSDGsの流れに乗って、国内でもその認知度が急上昇しています。

ここ千葉県四街道市においても、今こそアートを介して障がい者理解を深めるチャンスと捉え、今年度、はちみつ初めての作品展「Honey Come!!2021」（11/30-12/5）を開催致しました。啓蒙だけでなく、私たち『はちみつ』のことを、市民の皆さまに知っていただくことが本作品展の大きな目的の一つでしたので、会場は四街道駅近くの四街道市民ギャラリーをお借りしました。福祉関係者だけでなく、買い物袋を下げてふらりとお立ち寄りになったお客様など、一般の方にも沢山お越しいただき、5日間で約400名の方のご来場がありました。市民の皆さまにはちみつの作品を観賞していただけたこと、ご家族様や利用者さんの嬉しそうな笑顔が見られたことは、私たちにとってこの上ない喜びでした。

私たちは、はちみつで日々生まれてくるアート作品を間近で観て・感じています。生まれる瞬間にもほぼ毎日立ち会っています。さらにコロナ禍で外出できないこの一年は、アート活動が充実しました。素敵な作品群は、室内に何気なく貼っていたり、障子や襖そのものであったり、壁になっていたり、利用者さんのカバンにそっと入っていたり・・・そこかしこに存在しています。「アート作品」として捉えるか、らくがき？あそび？それとも「ゴミ」として捉えるか…障がいのある方がつくる作品の価値は、その方が関わる周りの環境によって変わってきます。私たちは、アート理解を深めるため学び続けていかなければなりません。

はちみつ利用者さんの中には、何年も人知れずひたすら絵を描き続けている方がいらっしゃいます。彼らは紛れもなく表現者＝アーティストなのですが、ご本人たちは特に誰からの評価も気にせず、ただ「好き」という気持ちだけで、描きたい時に描きたいものを描いています。もちろんそれで良いのです。ご本人の心が満たされていることは何より大切です。しかし、彼らが社会と繋がりをもち、地域の中で生きていくことを考えた時、「アート」はとっておきの飛び道具となります。これを活かせたら、利用者さんも、地域も、お互いにより豊かになることでしょう。それはまた、元々はアート的なことはしていないが、“得意を活かした支援”によりアート作品が引き出された方も同じです。

なぜ、彼らの作品はこんなにも魅力的なのでしょうか。
それは、圧倒的な独創性と、誰の真似でもない唯一無二のオリジナリティにあると思います。「どうしてそうなるの？」「どこからその発想が湧くの？」と私たちの思考が追いつく間もなく作品はできあがり、「なんて素敵！」と感動させられます。
この感動を、私たち職員だけでなく、ご家族の方々や地域の方々にも観ていただきたい！利用者さんご本人にもご自分で観賞していただき、客観的に「私は、こんなに素敵な作品を作っているんだ」と自信に繋げて欲しい！「Honey Come!!」にはそんな想いもありました。
私たちは、作品展のための制作はせず、ありのままのはちみつの作品群を持っていったところ、「作品を観て元気が出た」「コロナで暗くなっていた気持ちが明るくなった」など、嬉しいご感想をいただきました。誰かを感動させることは簡単ではありません。初めの一歩は、地域と繋がるための大きな一歩となりました。

終わりに、「Honey Come!!2021」の搬入・受付・搬出の際にはご家族様のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。また、市内のアーティスト（テンテンテンテン・・・展グループ）の方々のご協力で素敵な展示空間となりました。今後も連携して市内のアートを盛り上げていきたいと思います。

新たな挑戦として、Instagramをはじめました。Facebookにも投稿されます。時代に即した方法で情報発信していきます。

06 | ボランティア

今年度で5年目を迎え、清掃活動以外にも、砂場の整備、ヒマワリの種取り、大豆の選別、子供食堂のリーフレット折りなど、活動内容や活動場所が増えてきました。色々な仕事を任されることで、利用者は手応えを感じ、自信に繋がっているように思います。

NO.01 「ありがとう」のガソリン

四街道市鹿渡にある『日替わりシェフの店さくらそう』（以下「さくらそう」）では、草取り・庭掃除・窓ふき等を行っています。ここでは、Aさんが仲間を意識して行動している姿を紹介します。

EPISODE1

さくらそうに着くと、Aさんは庭の奥へ行き、草取りを始めていました。しかし、なぜか玄関の方向をチラチラと見ています。その姿を見て気になった職員がそちらを見ると、Bさんが掃き掃除をしようと箒を持っていました。その時突然Aさんが草取りの手を止めて、近くにあったちりとりを持ってBさんの所へ向かっていました。その後玄関では「ありがとう」や「頑張ろう」と伝え合いながら、二人で協力して掃き掃除をしている姿が見られました。

Aさんは、仲間が困っているのではないかと気にして、ちりとりを持って行ったのだと思います。そして、お互いを気にして「ありがとう」と言ってもらえたことが嬉しく、一緒に頑張ろうという気持ちに繋がったのではないでしょうか。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で上半期は伺うことができませんでした。しかし、10月から再開出来ることになり、利用者の皆さんに『今週からさくらそうにボランティアへ行きます！』と伝えると、満面の笑顔。
地域の方に「ありがとう」「助かったよ」と言って頂けると、嬉しくて、いつもよりも頑張れます。さくらそうは、地域の中で自分たちの力を発揮できる場所の一つなのだと感じました。

NO.02 支え合う

これまで、ひまわりの種取りや、ひまわり油のラベル張りなどを請け負っている農家さんから、大豆の選別をボランティアとしてお願いされました。沢山の大豆の中から、割れている物や皮が破れている物を取り除く作業です。初めてのことで、最初は戸惑っていましたが、回数を重ねる毎に「こんなにたくさん取れたよ！」「割れてるのもあるね！」と、楽しく取り組んでいます。ここでは、仲間の事を気に掛け行動している姿を紹介します。

EPISODE2

選別が終わった大豆を一箇所に集めるとき、Cさんは、足が痛かったようで、立ち上がるのが辛そうにしていました。それを見ていたDさんが「運ぼうか？」という表情でCさんの所へ行き、大豆を運んでくれました。そんなことが何回か続くと、Cさんから「Dさん、お願い！」と運ぶのをお願いするようになりました。Dさんも『任せて！』とばかりに取りに行き「ありがとう！」と言われ、とても嬉しそうな表情をしていました。

Dさんは、他の利用者と関わる事があまり得意ではありません。日頃からそんなDさんのことを、Cさんは気にかけ、話しかけてくれていました。いつも優しく接してくれるCさんが困っていることに気が付き、助けてくれたDさん。二人の支え合う姿が素敵でした。

NO.03 地域の中で、地域のために

四街道市和良比のわろうべの里内にある『四街道市児童デイサービスセンターくれよん』（以下「くれよん」）では、落ち葉の掃き掃除や砂場の掘り起こし、草むしりなどを行っています。始めたばかりの頃は少数での作業でしたが、徐々に人数を増やし、今ではつきのわの利用者全員で伺っています。ここでは、くれよんでのボランティア活動を通して一つエピソードを紹介したいと思います。

EPISODE3

いつも自分の中での決まった時間になるとトイレに行くEさん。くれよんでボランティア活動をし始めたころはトイレを探し回り、作業どころではありませんでした。しかし、次第に参加する仲間たちが増えていき、仲間が一所懸命に落ち葉の掃き掃除などに取り組んでいる姿を見て刺激され、最後までトイレに行かずに作業に取り組むようになりました。

くれよんでのボランティア活動を通して仲間たちと取り組むことの大切さを改めて感じました。普段とは違う場所で、地域の方から『ありがとう』と言われ、みんなもやりがいを感じてくれています。今では利用者自ら「次はいつ、くれよんにいくの？」と口にするほど楽しみにしています。これからもみんなと一緒に頑張りたいと思います！

まとめ

はちみつのボランティア活動は、個々の活動から集団の活動に変わってきています。一人ひとりが自分の得意なところを活かしつつ、仲間同士で助け合って活動していました。エピソードにもありますが、仲間を気にかけ仲間の気持ちを推し量る姿が見られたのも、集団での活動が多くなったからだと思います。

また、地域の方達との交流を、利用者の皆さんはとても楽しみにされていますが、特にボランティアを頑張った時の称賛は、何にも代えがたく、一番の原動力になっているように思います。現在は、新型コロナウイルス感染症が蔓延していることもあり、外部活動は中止しています。ボランティア先の皆さんから、『早く来て欲しい』というご要望があり、大変嬉しく思います。これも普段から利用者が、丁寧にボランティア活動をしているからだと思います。今後も皆さんの期待に沿えるよう、頑張っていきたいと思います。

07 | 職員研修

森川幸治　山畑遼侑　高田有啓

今年度の研修は昨年度に引き続き、はちみつ支援マニュアルを基に、『はちみつ』・『つきのわ』での支援方法の共有、職員の知識・支援の質向上を目的として行いました。

また、新たな取り組みとしては、研修内容を研修担当３名が中心となって考え、月１回の職員研修を開催したことです。

2021年度 職員研修実施一覧

月	テーマ	内容
４月	専門的知識を深める（生産活動）	製品への理解を深める/亀崎箒の作り方
５月	感染症予防について	ノロウイルスの知識、対処方法
６月	防災について	防災害時の対応方法、避難経路の共有
７月	法人理念と支援方法	法人理念/方針、具体的な支援方法
８月	虐待について	虐待防止マニュアル、環境づくり
９月	重点目標を振り返ろう	法人事業計画、重点目標の振り返り
１０月	ケース会議のあり方を探る	ケース会議の考え方、進め方
１１月	安全運転について	安全運転知識、事故時の対応方法
１２月	支援者の役割について	リーダー、サブリーダー、補佐補助
１月	虐待について	虐待防止の運営基準と変更点
２月	発達について（外部講師）	成人期障害者の「発達」
３月	法人理念について（全職員参加）	権利擁護の理解を深める

〈 外部研修 〉

・行動援護従事者養成研修　　（オンライン）　職員１名
・障害者虐待防止・権利擁護研修（オンライン）　職員２名
・青年・成人期の発達保障　職員３名
・地域とつながるものづくり「商品の価値を伝えるデザイン」（オンライン）　職員１名
・子供を作る権利を奪われた人たち　職員１名
・教育と保育の為の発達診断セミナー（オンラインセミナー）　職員４名
・発達保障研　千葉支部　レポート発表
　『他害行為がある利用者の支援方法の検討』　職員２名

専門的知識を深める（生産活動）
▷亀崎地域で作られている伝統工芸品・亀崎箒の知識を学び、その後、職員全員で亀崎箒作りを行いました。実際に作ってみる事で、製作の大変さ、製品の良さを知る事が出来ました。

感染症予防について
▷ノロウイルスについての研修を行いました。ノロウイルスの知識、対処法を学んだ後、はちみつ内でおう吐した利用者さんがいたときを想定し、対処シミュレーションを行いました。実際に行った事でノロウイルスの対処法をしっかりと学ぶ事が出来ました。

防災について
▷防災ハザードマップを基に災害時の対応方法を学び、地図を使い避難経路を考えました。災害時の役割分担を決めました。また後日避難所に利用者と一緒に歩いていく訓練も行いました。万が一の時に必要な知識、避難体験を行った事で良い研修になったと思います。

法人理念と支援方法
▷はちみつ支援マニュアルを基に、法人理念、方針の再確認を行い、支援方法を話し合いました。

虐待について
▷はちみつ虐待防止マニュアルを基に虐待について学び、利用者の立場に立ち、現在行っている支援方法が一歩間違えたら虐待につながる様な支援ではないかなどを情報の共有が出来ました。

重点目標を振り返ろう
▷年度初めに決めた『はちみつ』と『つきのわ』の重点目標の振り返りを行いました。今後の支援方法を話し合う事ができ、有意義な研修になったと思います。

ケース会議のあり方を探る
▷模擬のケース会議を行い、ケース会議のあり方、考え方、進め方を学びました。また、今後のケース会議の進め方を共有しました。今後の支援を考えるうえで実のある研修になったと思います。

安全運転について
▷利用者を事故なく安全に送迎する為の心得を学び、また事故の対応方法を共有しました。万が一の事態に備え情報の共有が出来良い研修になったと思います。

支援者の役割について
▷リーダー、サブリーダー、補佐補助、各役割の内容を学び、その後ミーティング時のシミュレーションを行い各役割の確認を行いました。職員が各役割になり切り体験しながら学べたことは、大きな収穫となりました。

発達について
▷社会福祉法人　八千代翼友福祉会　奥山直廣氏を講師として招き『成人期障害者の「発達」を考える』をテーマとしてオンラインで研修を行いました。奥山氏の講演は大変わかりやすく、発達について知り、考える良い機会でした。

研修で学んだ事を活かして、より良い利用者支援、家族支援を行っていきたいと思います。来年度も継続して職員研修を行い、支援の質を高めていきたいと思います。

08 | 行事報告

2021年度 年間行事・イベント実施一覧

月	行事内容	イベント
4月	入所式	燻製大会
5月		はちみつレモン ｜ 梅シロップ作り
6月		カラオケ大会 ｜ 紫陽花を見に行こう
7月	流さないそうめん	水遊び
8月		スイカ割り
9月		お月見団子を作ろう
10月		さとくらし公園へ!!
11月	HoneyCome!!2021	
12月	お疲れ様パーティー・餅つき大会	注連縄飾り作り
1月	成人を祝う会・凧あげ	初詣
2月		サプライズV
3月	健康診断	サプライズW・春のパン祭り

※ 防災訓練　毎月不定期開催

餅つき大会

餅つき大会では『一人一回お餅をつこう！』と目標を掲げ、取り組みました。一人ひとり、力強くお餅をつき、温かい豚汁を美味しく楽しくいただきました。今回は、お餅をつくグループと、ついたお餅に味を付ける二グループに分かれて行いました。今回、コロナで『はちみつ』『つきのわ』合同で行うイベントが少なく、久しぶりに合同で行えて、嬉しく思いました。

流さないそうめん

今年は『流さないそうめん』と名付け、室内でそうめんをいただきました。そうめんに入れたい具材を皆で決めて、汁はめんつゆで冷たく薬味も、ミョウガや大葉を入れ、さっぱりとした具沢山そうめんを食べ、美味しいと大満足に終わりました。
今年は外で流しそうめんをすることは出来ませんでしたが、来年は『はちみつ』『つきのわ』合同で「流せるそうめん」をやりたいと思っています。

おつかれさまパーティー

おつかれさまパーティーは、『今年一年間頑張りました！』と、みんなでみんなを労うパーティーです。一年間『はちみつ』を支えてくれたボランティアさんに「ありがとう」を伝えるパーティーでもあります。今回、おつかれさまパーティー実行委員会を組織しました。実行委員会のメンバーを中心に、食べたい物や飲みたい物をミーティングで決め、装飾や準備、買い出しも皆で協力して行いました。

　一か月前から楽しみにしている方や、朝早起きしている方もいらっしゃいました。当日にバッチリおしゃれをして、みんなで楽しくわいわいテーブルを囲み、食事をし、ボーナスを貰い…皆さんの嬉しそうな表情を見ることが出来てとても嬉しく思いました。来年も皆揃って、温かく楽しいパーティーに出来たらと思います。

成人を祝う会

新しい年を迎え、成人を祝う会では、『つきのわ』の新成人三名をお祝いしました。いつもとは違ったスーツを着て緊張した様子でみんなの前に座る三名。新成人としての言葉を訊かれ、皆さん恥ずかしそうに答えていました。『先輩からの言葉』では二名の先輩からの言葉を貰いましたが、先輩達も緊張しているのが伝わってきました。その後は新成人へのプレゼントをそれぞれ受け取り、嬉しそうな表情。みんなに温かくお祝いをしてもらい、とても良い表情をしていました。これからの新成人の活躍が楽しみです。

凧揚げ

今年の凧あげは二日間に分けて、二回行いました。『はちみつ』『つきのわ』に分かれてそれぞれ大きい凧を二つずつ作り、カラフルなセロハン紙が貼ってある凧や、字や絵がびっちり描いてあるダイナミックな凧も完成しました。皆さん凧あげを楽しみにしている様子でしたが、凧を作るのも楽しかったと喜んでいたのが印象的でした。特に『つきのわ』は一人ずつ好きなキャラクターが描いてある小さめの可愛い凧も作りました。今回の凧あげは『はちみつ』と『つきのわ』合同で対抗戦を行い、審査委員長が団体戦優勝とMVPを決めました。
一日目と二日目とも強風だった為、骨が折れてしまうというアクシデントも…。
作る工程もアクシデントも含めて、皆で笑った新年になりました。来年度は皆さんと一緒に、向かい風という困難に負けず、高い目標を持ち、頑張っていければと思います。笑う門には福来るです!!

09 | 健康管理

インフルエンザ予防接種（11月、12月）
今年度から協力医療機関の『もねの里クリニック』のご配慮により、各ホームで行いました。利用者は、普段と変わらない環境で安心して受けることが出来ました。

感染症予防
今年度も、マスクの着用・手洗い・消毒を徹底し、新型コロナウイルスの感染者ゼロで過ごすことが出来ました。職員は、はちみつの感染症マニュアルを使用した職員研修を繰り返し行いました。施設内と送迎車内の消毒を朝・昼・夕３回行い、利用者・職員の検温を朝・昼２回実施しました。
常時窓を開け、扇風機も回すなど、室内換気を徹底しました。ご家庭では体調チェックシートの記入をお願いし、毎日持参して頂いています。
今後も予防に関する知識を職員間で共通理解するように努めていきたいと思います。

健康診断（3月）
協力医療機関『もねの里クリニック』で、健康診断を行いました。病院で受診することが苦手な方が多くいらっしゃいます。そのため、病院のご配慮により、採血を各ホームで行いました。さらに、病院の休診時間に貸し切りで健康診断を実施して下さいました。今後も先生のご協力を頂きながら、安心して受診できるよう努めていきたいと思います。

2021年度はちみつ保健計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							予防接種	予防接種			健康診断

※嘱託医、随時相談　※施設内、車内及びコップ等の消毒の実施（毎日）
※体調チェックシートの実施　※検温の実施（朝、昼）

服薬管理について
・服薬状況について把握するために、依頼書を提出していただき、服薬の変更があった場合は、ご家族から連絡を頂けるよう依頼をしています。
・服薬支援については、飲み忘れ、飲み間違えが無いように、必ず2人で服薬の確認を行っています。
・薬品管理については、施錠がかかる場所で保管し、誤飲などの事故が起こらないように注意しています。
・災害時用の予備薬を希望者のみ各ホームにて保管しています。

衛生への取り組み
・手洗い、手指消毒を徹底し、利用者さん自身が清潔を保てるように支援しています。

10 | 利用状況

（令和４年3月31日現在）

出席率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
93.9	90.8	91.1	94.0	97.6	100	98.5	97.8	90.3	94.4	94.8	95.8	80.6%
22	23	22	22	23	22	23	22	23	22	20	23	266日

利用者状況／年齢別構成

年齢	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上
男性	2	14		1	2	0
女性		2	1	3	4	0
合計	2	16	1	4	6	0

療育手帳別構成

	Ⓐ	B2	B1	A2	A1	Ⓐ1	Ⓐ2
男性	1				11	4	3
女性		1	1		2		3
合計	1	1	1		15	4	6

身体障害者手帳1種1級所持1名　3級1名　6級所持1名
精神保健福祉手帳1級所持1名

障害支援区分

区分	6	5	4	3
男性	10	5	4	0
女性	3	4	2	1
合計	13人	9人	6人	1人

居住地　　四街道市在住　21名　　千葉市在住　6名　　佐倉市在住　　2名

4月　3名入所、7月1名入所、8月1名入所、11月1名入所1名退所
2月　1名入所、3月　1名入所

11 | 事業計画 等

2021年度　生活介護はちみつ　事業計画

Ｉ、趣旨

昨年度も定員20名を満たし、今年度からは定員を25名に増員致しました。特別支援学校を卒業し通所される方が2名、その他1名の方が加わり計25名の方が在籍しております。当施設も5年目を迎えましたが、社会福祉事業への需要や期待は、今後益々増えていくと思われます。今後も将来的にみて、はちみつという社会資源の在り方を模索していかなければならないと思っております。

これまで、私たちは『地域の中で、地域のために、地域に必要とされる』施設を目指し、ボランティア活動等を行って参りましたが、昨年から新型コロナウィルス感染拡大の影響をうけ、外出などの活動の場が減り、地域とのかかわりは以前より少なくなりました。

しかし、昨年度は、これまで行ってきた地域とのかかわり方を見直し、工夫することでかかわりを継続する事ができました。今年度は、これを土台にし、これまでとは違った方法や形で、地域に根ざした活動を展開し、深めていきたいと思っております。

事業基本理念

- 地域で、普通の、人としての生活を送ることができるよう支援する。
- 地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）施設を目指す。

支援方針

・人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
・利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
・地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

支援方法

・安心、安全な生活が送れるよう支援することを基本とする。
・三間しょう（時間・空間・人間）の視点を持って支援することを基本とする。
・得意な所に目を向け、苦手な所に手を当てる支援を基本とする。
・周りの人を楽にすることが本当の意味で側楽（はたらく）ということを支援の基本とする。
・一人ひとりの長期的及び短期的支援目標を設定し取り組む。目標設定に際しては、本人及び家族との協議を行い一体的な支援を基本とする。
・本人への支援と一緒に、家族への支援も同時に支援する。
・支援の重点目標を設定し、支援方法を確立する。

Ⅱ　事業計画

１、定員	25名以下	
２、職員	管理者	1名（兼務可）
	サービス管理責任者	1名以上（兼務可）
	生活支援員	1名以上
	看護職員	必要数
	医師	必要数（嘱託医）

３、支援態勢　安全対策を前提にし、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、創意工夫し生活の中で充実感をもてるように、作業での手ごたえや仲間との関わり、地域貢献活動を大切にし、生活の場を構築することを目指す。

Ⅲ　重点目標

1. 支援や取り組みの充実

支援方法を基本におき、利用者が主体的な活動を通して、手ごたえを感じられるよう支援し取り組む。さらに、集団の発達の視点をもって支援し取り組む。

ホーム活動

『はちみつ』「ありがとう」と伝えあえる環境づくりを意識し、利用者一人ひとりが認めることや認められることを大切に支援する。
また、アートに興味、関心がある方が多いことから、アートの視点から、利用者の新たな一面を発見できるように支援する。

『つきのわ』一人ひとりの居場所をつくり、役割を通して、手ごたえを感じてもらえるように支援する。

生産活動

『木工』作業工程を見直し、側楽を充実させ、利用者ができる作業を通して手応えを感じてもらえるように支援する。

『織物』糸をつむいで布を織る楽しさを感じてもらえるように支援する。

2. 家族支援

利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。また、利用者支援のための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する。

3. 職員研修

職員の質の向上を目的に、毎月一回以上の研修を行う。また、外部の研修も定期的に参加し、自己啓発に努める。

4. 他事業、他法人との連携

他事業所、他法人と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓蒙する活動を行う。

5. ボランティア活動

地域の中で、利用者が主になってボランティア活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。また同時に、法人職員も地域に貢献するように努める。